

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所ケ・セラ			
○保護者評価実施期間	2026年 8月 1日 ～ 2026年 8月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2026年 9月 1日 ～ 2026年9 月15 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 9月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達状態に応じ、寄り添った支援が出来ている。	個々の発達段階において、活動内容を分別化したり、子ども達が「出来た」と感じられるよう活動の工夫を意識的に行っている。 職員同士で児童の情報や支援内容を共有し、チームワークをもって同じ方向性で支援を行っている。その日のうちに振り返り、フィードバックを意識して取り組んでいる。	定期的な研修または、他事業所との情報交換など積極的に取り入れレベルアップへと繋げていく
2	園芸体験など自然に触れる活動が充実している。 近隣の公園やショッピングモールへ出かけ園外活動が充実している。 季節ごとの行事やイベントをプログラムへ取り入れ季節の変化や文化に触れながら活動に参加できる機会を提供している。	近隣の公園やショッピングモールへの外出、季節に応じた行事やイベント、親子参加型の活動や夏祭り等を実施している。子どもたちが楽しみながら多様な経験を積めるよう、発達段階や興味・関心に合わせて活動内容を工夫している。	子どもたちの興味・関心や発達段階を踏まえながら、地域資源も活用したさまざまな体験活動を取り入れていく。また、活動を通して得られる経験を療育的な視点から支援につなげられるよう、活動内容のさらなる充実を図っていく。
3	ST・OT等の専門職による専門的な視点に加え、その他の職員もこれまでの経験や知識、それぞれの得意分野を活かし、多角的な視点から子どもの発達や特性を捉えた支援を行うことができる。	日々の活動や個別的な関わりの中で気付いた子どもの姿や支援方法について職員間で共有し、専門職の助言も取り入れながら、一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援につなげている。また、職員それぞれの経験や強みを活かした活動内容や支援方法を取り入れている。	専門職とその他の職員との情報共有や意見交換の機会をさらに充実させ、それぞれが持つ知識や経験を事業所全体で共有していく。研修や事例検討等も活用しながら、職員全体の専門性と支援の質の向上を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員それぞれが経験や専門性を活かして支援を行っている一方で、支援方法や専門的な視点について、職員間で十分に共有するための機会をさらに充実させる必要がある。	日々の支援や送迎、記録作成等の業務がある中で、職員全員が揃って一人ひとりの支援について検討・共有する時間を継続的に確保することが難しい場合がある。	日々の申し送りやミーティングを活用し、子どもの様子や有効だった支援方法を共有する機会を増やしていく。また、専門職からの助言や職員それぞれの経験・知識を共有し、事業所全体で支援の質を高められる体制づくりを進めていく。
2			
3			